

昭和52年度 第4回シグマ研究委員会運営委員会議事録

日 時 昭和52年8月19日(金) 11:00~17:30
場 所 日本原子力研究所東京本部第22会議室
出席者 塚田(主査, 原研), 久武(東工大), 中嶋(法大),
大竹(動燃), 松延(住友原工), 百田(東北大),
飯島(NAIG), 更田, 五十嵐(原研)
オブザーバ: 原田, 浅見(哲)(原研)

配布資料

1. 前田議事録
2. JENDL-2 候補核種
3. INDC/P(77)-40
4. Accelerator Breeding について
5. IEEE Trans. on Nucl. Sci 24, 1043 (1977)
6. " 24, 1611 (1977)
7. 案内状(専門部会, WG名称の変更についての)

議事

1. 前回議事録確認
2. 専門部会活動

五十嵐委員により, 核データ専門部会の連絡会での討議にもとづいて重核データWGと軽・中重核データWGとの間でメンバーの移動を行ったことが報告された。これに関連して事務局より資料(7)の案内状の説明があった。また, 久武委員より燃料計量核データWGについての説明があった。

3. 原子力学会インフォーマル・ミーティング

インフォーマル・ミーティングを10月2日(12:10-14:00)北大で「核データ測定者・評価者・利用者間の情報交換」の名称で行うことが報告された。

4. IAEA Advisory Group Meeting on Nuclear Data for Fusion

更田委員より IAEA から出席者の推せん依頼を受けているので候補者を出して欲しい旨発言があり、審議を行った。

5. 核データニュース

事務局より、版を大きくしたいこと、原稿料を検討していることについて意見を求めたところ、版を大きくすると informal な感じが薄れる、サンプルで検討したらどうかとの発言があった。

6. 原子力総合シンポジウム

久武委員より、原子力シンポジウム（来年2月15日・16日）についての第1回運営委の報告があり、今度は基調テーマを絞ることになり、現在、新国際情勢下での核燃料サイクル、炉材料の学術報告が挙げられていることが述べられた。

7. Action from NEACRP

更田委員より、UK、西独、フランスから出ている核データの request に対するコメントについての弘田氏からの依頼が紹介され、request リストを運営委メンバーに送付することにした。

8. Tokyo Conf.

核データに関連の深い外人出席者の紹介があった。

9. TND Newsletter

五十嵐委員より、ORNL の Raman 氏から TND Newsletter についての問合のあったことが紹介された。

10. 2年報

全体の構成、配分、執筆者についての討議を行い詳細を決めた（詳細は省略）。これにもとづいて執筆者に依頼することになった。

11. Accelerator Breeding

塚田主査より資料(4)、(5)、(6)にもとづいて詳しい解説が行われ、討議を行った。

12. 核融合開発上の問題としての核データ

塚田主査より、表記についての最近の調査結果にもとづいて詳細な説明

が行われ討議を行った。

13. JENDL-2 の計画

五十嵐委員より資料(2)にもとづいてJENDL-2の候補核種ならびにJENDL CGでまとめたpriority. 担当予定者等の説明があった後、討議が行われ次のような意見が出た。

- JENDLは統一のとれたものにすべきである。
- 横割りのevaluationをこの表の分担とは別に考えて欲しい。スペクトル等については横割りでやる必要がある。
- 2年後に、 γ productionやerror fileを考慮してもENDF/Bの後を追うことにならぬか、すぐにできなくても今後どうするかを考えておく必要がある。
- man powerが足りないれば、目的を絞らざるをえないのではないか？
- われわれ単独でやれないものも、ヨーロッパのグループと協定してやることも考えたい。
- 国際協力でやるためには、こちらに特徴がないとだめ、若い人が増えないとだめである。
- fusion researchとの関係
- contributionの発掘を運営委で考えて欲しい。
- error fileをやれる人から始めたらどうか。
- はじめはevaluationに個人差があっても仕方がない。その蓄積によってあるべき線が出てくる。
- error評価の方法論を考えておく必要がある。
- errorについて専門部会で議論したらどうか。
- 北沢氏らの γ productionの仕事をJENDLと直結させるにはどうしたらよいか。

なお、これらについては継続して審議することになった。

14. その他

資料(3)の説明、barn 廃止に対するaction等の話題が出た。

次回は10月21日（金）東海の予定
（その後、都合により10月14日（金）東京に変更になった。）

以 上